

乳幼児の子育てサロン

カトリック名古屋教区報恩会（岐阜県） 〒509-9131 岐阜県中津川市千見林1468-7 TEL 0573-68-6858

活動の概要

当法人は3つの児童関係施設を経営、地域に根ざして児童福祉の向上を目指しています。子育てサロンを始めたのはその一環、主任児童委員の支援を受けて子育て中の母親等を対象に毎週1回集う場をもっています。これによって親のふれあい、子どものふれあい、赤ちゃんへの声かけなどがあり語り合う親たちの心身のやすらぎや親睦にも役立っています。また、子どもの保健指導や演習も取り入れ、子育てに志気を高める支援活動の展開をしています。

法人の概要

故人藤井篤太郎氏は遺言で自分の土地建物一切を三重県津市にある法人の児童養護施設に、社会事業に役立てて欲しいと寄付されたが事業の実現ができずその責任を名古屋教区に依頼し実現しました。カトリック名古屋教区は寄付物件の一切を引き受けて児童ホーム藤井学園を設立、20年後に、法人名、施設名を変更し、現在の法人名、施設名となりました。

小鳥のさえずりも身近に聞ける緑豊かな静かな環境、JRの駅や小中学校も近く子どもたちの生活環境に不足はありません。中津川市は人口5万数千人の小さな市、木曾谷は山の中にあると詠む島崎藤村記念館を北に仰ぎ見る自然の山々に素朴性を味わえます。

- 経営施設数…3
- 法人全体の年間事業収入…347,720千円
- 主な経営施設
 - 児童養護施設 昭和33年設立 定員50名
 - 乳児院 平成12年設立 定員15名
 - 児童家庭支援センター 平成11年設立

活動の内容

- 活動対象者…地域住民の子育て中の母子等
- 活動の頻度…毎週1回約2時間
- 年間延利用者数…約960名
- 活動開始年…平成11年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

地域に開かれた施設養護の展開は、地域児童との交流を図ることによって機能化します。地域交流ホームの建設によって多様な利用があります。子どもたちの交わり、文化的活動も徐々に広がり、地域住民の施設利用も多くなりました。少子化や虐待問題が高まる中で、主任児童委員は学童保育の実態面から家庭養育機能の希薄化を憂慮され、相談や助言が日増しにふえる状況に親たちの家庭養育のあり方、特に子育て中の母親たちの様子を見て相互に語り合うことの必要性を思い、親たちが子連れで集い気軽に会話し語り合える楽しみとよろこびの中で子育てで不安や心配ごと等々を解消し、明日からの子育てに専念できるように配慮し支援を開始しました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

法人の施設経営45年になってようやく地域住民の1員になれた感じ、施設経営は地域の理解と協力がなければ施設の目的は果たせないとの実感でした。多くのボランティア、実習生等も受け入れて協力支援をうけて地域化に努めた。子育てサロンも主任児童委員等によるボランティア、サロンでの行事には休日利用の保育士等の協力があります。資金面では団体補助金等を受けて遊具の設備、可能な限り母親たちの金銭的負担をさけて最低限度の維持費で工夫しています。楽しみ会の時には参加者たちが材料実費を負担し相互に作り合っけて楽しみ会の展開となります。

■利用者の声、地域の反応

子育てサロンの利用者の声が1人また1人に伝えられてか、利用者は段々増加しています。多面的な話題の中で、気軽に語り合える場面に余裕を感じます。三三五五の場の語らいの中に笑い声もあります。友が友を呼び日頃の子育ての様子を相互に語り合っているのでしょう。子どもたちは相互に遊びふれあっており親たちも気を許し合っけて語り合える場にやすらぎを感じ

満足顔で帰っていきます。子育てサロンに気軽に集まり語り合える私たちの場、共に健康に子どもを育てる競争の場となっているように思います。ある母親が楽になりました、と話していました。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

先にのべたように、この活動は、子育て中の親たちの理解利用が徐々に高まっていると思っています。この実態が活動の成果であろう。少子化、虐待が増加する中で、家庭養育支援、虐待予防対策の1つと考えています。

行政施策を越えても必要なことは可能な限り積極的に取り組み福祉向上に努めたい。

この活動によって1人でもよかった、助かったと言ってもらえればそれでよい。お金の問題ではない。相互扶助は自然の姿です。



子育てサロンでのなごやかな活動風景